

### 3、フランス

#### ① パリ市内調査

##### ● デファンス再開発地区（11月11日 14:00～16:30）

##### ○都市過密緩和のための副都心の形成と都市デザイン視察

ベルンより特急列車のTGV9284でパリのリヨン駅に到着後、ホテルに一時荷物を預け、この時期の特徴的な天候だそうです。どんより曇ったときどき小雨が降る肌寒い中、地下鉄で目的地のデファンス再開発地区の視察へ出かけました。

デファンス地区はルーブル美術館からコンコルド広場、凱旋門を通り郊外へ延びていくパリの歴史軸の一直線上に位置し、デファンス地区内ではこの軸線上に建築物は建てられていない。

当日は残念ながら小雨で遠くまで見通す事はできませんでしたが、計画が建てられたのが1958年に計画が着手されこの地区の開発がフランス政府と地方自治体で進められ、現在も古くなったビルが超高層ビルへと再開発が進められており長期的な開発が進められておりました。

パリ市内は景観保護や伝統的な建設物の保護のため超高層ビルの建設が難しいので、建築規制が少ないこのデファンス地区に超高層ビルが集積する要因となっているとの事でした。

ルーブル宮殿の凱旋門から一直線に伸びている事に驚きとすごさを感じました。



TGVでパリ（リヨン駅着）



地下鉄の切符購入



ラ・デファンス地区



凱旋門をイメージした超高層ビル

## ② S I A H

●（水利整備広域行政事務組合）下水処理場調査（11月12日 9：30～12：00）

・S I A H（水利整備広域行政事務組合）の広報担当のフランク・クワドリ氏より説明を受けました。

フランスの地方自治体の数は36,000自治体とヨーロッパ全体の40%を占めるほど数が多いのでこの様な事業は広域で処理したほうが効率がいいので、35市町村で広域事務組合を作り事業を実施している。

1960年に水に関する法律が施行されこの法律に従い流域で雨水と汚水の処理と管理を行なっている。併せて地域住民に対するの広報活動も大切な役割です。

汚水処理場の運営から汚水管の維持管理や布設、事業所からの排水についてのケミカルなどの水質についてもチェックしている。そのための管理システムも設置し、24時間管理し監視業務も担当している。事業所からの排水監視も重要ですが、今、大きな課題は、農業関係の農薬やその他の薬品についても改善が必要と考えられる。

現在、汚水処理場の能力は30万人を対象とした設備で現状は25万人の処理を行なっており、今後は増強が必要と考えている。

組合の運営は各自治体より2名の代表でそれぞれ理事長などの役職を決め、議会で決定し運営されている。

その後、汚水処理場を見せていただきましたが、長崎市の処理方式とは違った方式で処理がなされていたように思います。



レクチャー状況



処理タンク



コントロール室



汚泥

### ③ S E N A T（セナール）環境の家調査（14：00～16：00）

#### ●環境対策と環境教育について

セナール環境の家 館長のピエール・ガリヌー氏より環境の家の組織や事業内容について説明を受けました。この組織は30年前にフランスの組織ニュータウンとして設立された。

広域行政組合の形式で運営され、それぞれの行政より人口割で代表を選出し議会で決定し運営している。

環境の家の職員は8名で、5名が訪問者の対応を行っています。

#### 【主な業務内容】

- ① 地域の住民へ環境情報の提供
- ② 学童に対して年間を通じての環境教育（年4～5回開催）
- ③ 学校の先生に対して教育や学校教育へのサポート
- ④ 訪問者の対応
- ⑤ WEBでの情報提供
- ⑥ エコロジー情報の提供（住宅・洗剤・化粧品・水・空気・土壌汚染）

以上のような活動を行なっています。



環境の家（事務所）



レクチャー状況



野口団長よりお礼と記念品贈呈



展 示 場